



1. ワークショップ・プログラム (6月20日)

北東アジアの安全保障を構想する： 北東アジア非核兵器地帯への包括的アプローチ 第2回国際ワークショップ

日時：2013年6月20日（木）9:00～17:00

場所：韓信大学

プログラム：

08:30 参加登録

09:00 開会挨拶：イ・キホ（韓信大学教授）

09:15 長崎でのワークショップ I の報告：梅林宏道（RECNAセンター長）

09:30 **第一セッション：**

非核化は共通の安全保障の鍵

モデレーター：ムン・ジョンイン（延世大学教授）

基調講演：イム・ドンウォン元統一庁長官

パネル発言：各国からの見解

（各パネリストは、それぞれの国の視点から、南北朝鮮及び日本を含む北東アジア地域の非核化が地域の安全保障の鍵となるという考え方に対する見解を述べる。）

- 韓国：パク・スンソン（東国大学教授）
- DPRK：イ・ジョンチョル（崇実大学教授）
- 米国：ピーター・ヘイズ（ノーチラス研究所所長）
- 日本：水本和実（広島市立大学広島平和研究所）
- ロシア：ベク・ジュンキ（韓信大学教授）

10:40 休憩

11:00 討論

12:00 昼食

13:30 第2セッション：
平和と安全保障に関する包括的協定
モデレーター：ピーター・ヘイズ

基調講演：モートン・H・ハルペリン（オープン・ソサエティ財団上級顧問）

パネル発言

（各パネリストは、ハルペリン博士の提案する北東アジアの平和と安全保障に関する包括的協定案に対する見解を述べる。）

- クリストフ・ポールマン（FES Korea 代表）
- エンクサイハン・ジャルガルサイハン（モンゴル特命全権大使）
- アラン・ウェア（核軍縮・不拡散議員連盟（PNND）グローバル・コーディネーター）

討論

15:00 休憩

15:30 第3セッション：全体議論

モデレーター：イ・キホ、中村桂子（RECNA准教授）

休戦協定から平和協定へ
二国間/多国間協力を通じた相互信頼の構築及び強化
非核兵器地帯実現への可能な方途

（パネリストのいない自由討論のセッションであるが、主に3つのテーマについてそれぞれ短い発題があり、時間を区切った議論が行われる。）

17:00 閉会挨拶及びワークショップⅢへの提案：梅林宏道

17:40 休憩

18:00 レセプション

2. 韓国キーパーソンとの意見交換会（6月21日）

韓国の有力政治家、北朝鮮問題の専門記者、現政権アドバイザーとそれぞれ1時間半ずつの会合を持ち、北東アジア非核兵器地帯への包括的アプローチなどについての意見交換を行った。

主催側の参加者：

モートン・H・ハルペリン

J・エンクサイハン大使

ピーター・ヘイズ

ジョアン・ダイヤモンド

アラン・ウェア

イ・キホ

梅林宏道

調 漸

中村桂子

3. 市民社会フォーラム・プログラム（6月22日）

平和と安全保障を考える：北東アジアにおける「瀬戸際外交」を終わらせる

日時：2013年6月22日（土）10:00～13:00（昼食含む）

場所：参与連帯事務所会議室

共催：

韓信大学平和と公共性センター
核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）
長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）
アジア地域イニシャティブ（ARI）
NPO法人ピースデポ

（本フォーラムにおいては、20日の専門家ワークショップの参加者と韓国及び日本の市民社会との対話を促進し、北東アジア非核兵器地帯への包括的アプローチに関する理解を深めるとともに、同構想の推進に向けた両者の協力の在り方を模索することを目指す。）

プログラム：

09:45 参加登録

10:00 開会挨拶及び参加者の紹介

10:10 パネル討論（案）

モデレーター：イ・キホ

- 1) 北朝鮮の核危機をいかに解決に導くか
モートン・H・ハルペリン（オープン・ソサエティ財団上級顧問）
- 2) 抑止から協力へ：東アジアに平和をもたらす3つのビジョン
イ・テホ（参与連帯事務局長）
- 3) 日本 NGO の見解と日韓 NGO の協力の可能性
湯浅一郎（ピースデポ代表）
- 4) 北東アジアの安全保障へのオルタナティブの必要性：ウランバトル・プロセス
J・エンクサイハン（モンゴル特命全権大使）

11:00 討論

11:50 休憩

12:10 昼食及び討論

13:00 閉会